池田町総合教育会議 議事概要

1　開催日時　　平成 29 年 12 月 27 日（水）13：30～15：30

2　場　　所　　池田町文化交流会館 2 階 大会議室

3　出 席 者　　委員 6 名　関係者 1 名　事務局 3 名　計 10 名（欠席者なし）

【委員（役職名）】

佐藤 秀幸　（教育長職務代理者）
佐飛 正美　（教育委員）
宮本 純子　（教育委員）
岸本 英明　（教育委員）
杉本 博文　（池田町長）
内藤 徳博　（池田町教育長）

【関係者（役職名）】

溝口　　淳　（池田町副町長）

【事務局（役職名）】

山口 正幸　（池田町教育委員会事務局課長）
田中 喜美子（池田町教育委員会事務局参事）
村中 国彦　（池田町教育委員会事務局主事）

4　開　　会

5　町長挨拶

3 月に池田町で発生した事件について、改めて子どもを教え育むという現場で、このような深刻な事態が起こり、無念であり痛恨の極みである。第三者委員会の報告書は我々にとってもショッキングなことであり、二度とこのようなことが起きないよう、地域・家庭・学校が一体となり地域の協力のあり方や課題等をみんなで協議し、信頼を回復していきたい。

6　教育長挨拶

教育の再生、教育行政の信頼回復に向けて取り組んでいく。学校のこれからのあり方について、みなさんの忌憚のない意見をお伺いしたい。

７　協議事項

町　長

委員のみなさんのご指導をいただきたい。事件から感じ取られたことについて委員のみなさんの意見をお聞きしたい。

委員Ａ

第三者委員会の報告書を読んだ限りでは、生徒個人の能力、個性に応じた適切な指導が充分でなかったように思う。教員一人ひとりが生徒の能力や個性を十分に見極める能力を高めることが大切である。学校現場では子供たちの情報を共有するという点で報告、連絡、相談といったことがおろそかになっていたり、担任の生徒に対する厳しい指導を見ても、担任を信頼して任せてしまっていたりした面があったと思う。自分も含めて反省したい。

ネットなどの情報では、今までの池田中学校の取り組みが何でも否定されるような書き方をしたものもあるが、今までの池田中学校の人間を育てる様々な取り組みは決して間違いではない。しかし、このような衝撃的な事態が起こったことは事実であり、見直す点はしっかりと見直し、二度と同じことが起きないよう萎縮することなく、自信を持って取り組んでほしい。

委員Ｂ

PTA、一人の親として意見を述べたい。池田の学校は小さいならではの温かい学校で、教育や周りの環境に問題があったとは思えない。このような環境を今の子ども達にも伝えたい。

家庭と学校に壁を感じているのは、言いにくい事が互いにあることが原因ではなかったか。学校の先生が忙しいのは分かるが、その上で学校と家庭との連絡体制を見直すべき。生きることの大切さを学んだ。死は多くの人を悲しませる。親も含めてこういったことを考えることが大切である。

委員Ｃ

教員の人員配置は難しく、慎重にやるよう気をつけるべき。部活では専門外を担当する教員も多く、競技経験のある生徒は教師を軽んじたり、保護者が指導に意見を言うなど大きなプレッシャーとなっていたかもしれない。

学校、家庭、教育委員会の三者がつながるようなシステム（保護者が学校に言えないことを教育委員会が汲み取ること）が必要。PTA などの会議の場では保護者の方は言えない。保護者と教育委員会で話す機会を設けてはどうか。

委員Ｄ

調査委員会の報告は真摯に受け止め、子どもに向き合っていかなければならない。一人ひとりがかけがいのない存在であることを決して忘れてはならない。

命の教育では命の大切さと合わせて、生きるためのたくましさや、生き抜くことを伝えていきたい。大人が覚悟を持って取り組むことが大切ではないかと思う。

若い先生方も夢や希望を持って熱心に取り組んでいる。町民としてサポートで

きる事を考えたい。

町　長

全てを学校に求め、完璧を押しつけていなかったか。社会も考えなければならないのではないか。行政として無関心ではなかったのかを振り返らないといけない。このことについて皆さんのご意見はどうか。

委員Ａ

昔は我慢、耐えることが多かった社会であり、我慢する力が養われた。

今は子どもが耐えるということが少ない。そういう社会となっていることを踏まえた指導をすべきである。学校でも家庭でもある程度の負荷も与えて、たくましさも身に付けさせることも大切だと思う。

町　長

今の子どもは、指を工作の刃物で切ったら、親も含め強く反応する。親自身も何が大切なのか学ぶ必要がありはしないか。子どももたくましさを身に付けなければいけない。

委員Ｃ

今の子どもたちは地域の人と触れ合う機会が少ない。昔は地域とのつながりが強かった。私が都会へ出た時、人とのつながりが希薄なので、池田がなつかしいと感じたし、温かく感じた。これからの子どもが町外に出た時、池田に戻りたいという地域づくりが必要だと思う。

町　長

保育園や幼稚園から「たくましさ」を育てたり、「どういう子育てをしていくのか」という視点が必要ではないか。このことについて委員の皆さんはどう思うか。

委員Ｄ

自由遊びが少ないのではないかと感じたことがある。程度にもよるが、喧嘩やけがの経験も必要だと思う。保護者への連絡や事務作業など、現場の先生方の仕事量が多く子どもに向き合う時間やゆとりがないようなら、職員をサポートする地域のボランティアやＯＢの方をお願いしてはどうか。

委員Ｂ

過保護が一般的になっており、たくましさを身に付ける上では、親から考え方を改めないといけない。

町　長

子どもの頃は遊び道具がなかったので工夫をし、遊ぶのも一人ではなく集団で遊んだが、少子化や環境が変わったので今では難しいことかもしれない。

チーム池田として、池田らしい、家庭や地域社会を含め子どもをどのように育てるかなど、大綱を見直す必要について、皆さんのご意見はどうか。

教育長

見直す方向としてはどうか。

町　長

ただ単に活字のある文書を作成するということではなく、作り上げる過程が大切だ。1年ぐらいかかるのではないかと思う。現大綱を否定するつもりはない。

委員Ａ

昔は子ども同士で様々なことを解決していた。今は教師や保護者がすぐに子どもたちの間に入ってしまう。昔のようなことを今も同じようにするといっても難しいが、例えば親に少し物事を大目に見てもらうなど、理解してもらうことが必要。

町　長

大綱については専門家も交えながら検討したらどうか。例えば行政と保護者だけだと当事者なので言いたいことが言えないかもしれない。

「池田町学校教育環境向上化プラン（案）」について、小規模の利点を生かす、小規模の不利を克服するために、三位一体で育む一斉型教育から個別型教育を目指す取り組みを考えている。

（以下、別添資料により町長案説明）

町　長

これらの案について、委員の皆さんのご意見を伺いたい。

委員Ｃ

ローカルティーチャーは必要かもしれない。手本となる大人や導く大人が地域に少なくなっている。

委員Ｄ

まち人授業は良いと思う。

町　長

現場の先生が全てを負うというのは無理があると考えている。

委員Ａ

現在、全国的に見て中学校の教諭の6割が月80時間の過労死ラインを越えていると聞いている。

特に部活の指導をどのようにとらえるかは非常に難しい。部活時には学級内では見られない、様々な子どもの様子を知ることができると思う。先生が部活に出ないで他の人に任せるという議論もあるが、町内の人に部活のサポートをしてもらうにしても、その方が土日に行けるのか、人間性は誰が判断するのか、など課題も多いように思える。

町　長

各々のプランについて協議いただき、出来るものから実行して行ければと考え

ている。

委員Ｂ

ストレスケアプログラムは非常に興味がある。

町　長

カウンセリングは相談であるが、このプログラムは治療も兼ねている。

委員Ｂ

池田町は他の市町の人からも温かいところですね、とよく言われてきた。これからも、そのイメージを大切にしていきたい。

町　長

学校だけではなく社会も協力者となり、今後のことについて覚悟をもって取り組んでいく。委員の皆さんはどうか。

委員Ｄ

良いことだ。

委員Ｃ

子どもの事を第一に。子どもはかけがえのない宝もの。それをみんなで磨いていくべき。

委員Ｂ

このような取り組みを目指している池田町に、生活できる子どもたちが羨ましく思う。

委員Ａ

これからは受け身の姿勢ではなく、積極的な行動をしていく。学校現場は委縮してはいけない。今までの反省はもちろん必要だが、子どもたちが誇りをもてるような町にしていかないといけない。

町　長

チーム池田として、それぞれの個性や適性に応じて生活を送るような体制をつくりあげていく。

次回の会議は、来年１月１０日にこの会場で行いたい。

８　閉　　会